

岩津ねぎだより

平成30年8月20日
岩津ねぎ産地協議会
生産支援チーム

8月に入り、朝夕は若干涼しくなりましたが、日中は30℃を超える日が続いており、岩津ねぎの生育はやや停滞気味です。しかし、盆前から台風の影響で、降雨があり、高温多湿の状態となり、一部の地域では、軟腐病や白絹病の発生が見られます。

【一部のほ場で軟腐病や白絹病が発生】

★軟腐病

葉が黄化し、株元が腐り簡単に引き抜け、腐敗臭がします。気温が30～35℃で多湿で発生しやすいため、局地的な降雨に注意しましょう。

<発生株を見つけた場合>

- ・被害株は抜き取り、ほ場の外に持ち出す。
- ・ヨネポン水和剤の500倍液を散布する。

<発生していない場合>

- ・軟腐病の予防をしましょう。
オリゼメート粒剤は「転ばぬ先の杖」。
発生前に必ず使用してください。
オリゼメート粒剤 6kg/10a
(一作につき2回まで施用できます。)



生産支援アドバイザーから一言
『ペットボトルを活用すると、オリゼメートが楽にやれますよ』



軟腐病発生状況

★白絹病

下葉が萎れ枯れている株が連なっており、掘ってみると、白くて比較的太い菌糸がはびこっている。

地際部に赤茶色の小さな菌核を密生する。

<発生株を見つけた場合>

被害のひどい株は抜き取り、ほ場の外に持ち出す。併せて早急にモンカットフロアブル40の2000倍液を10a当り100～150ℓ株元に灌注処理しましょう。



白絹病発生株

【害虫の被害に備えよう】

雨が少なく、若干気温も下がってきました。今後、ネギアザミウマ・ネギハモグリバエの被害が予想されます。

ダントツ粒剤を株元に、10a当り3～6kg散布して予防に努めましょう。

【土入れ作業の実施】

降雨のあとの乾燥で、表土が硬く締まると、通気性が悪くなり、酸欠で根の生長が悪くなります。根が酸欠にならないように根鉢周辺の土壌をほぐしてやってください。

具体には中耕除草のとき、根の周りの環境改善を意識して、根鉢の際まで耕します。ただし、襟首より上に培土すると生育ストップで逆効果になりますので注意してください。

襟首より下が伸びている場合は、中耕培土が必要です。写真のように襟首より下が伸びているほ場では、襟首の下まで培土しましょう。



【追肥はあわてない】

生育が悪いと言って、早い追肥は厳禁です。気温が高く雨が無いときは、チッソ肥料を大量に施用すると、根焼けを起こすだけでなく、病害発生を誘発してしまいます。

追肥は生育を見ながら、2回目の土寄せ時から実施しましょう。

<施肥設計>

[10aあたり]

資材名		施用量	時期・施用方法
追肥	やさいめいじん	90kg	2回目土寄せ時
	磷硝安加里 S604 または PKセーブ	30kg	3回目土寄せ時
		30kg	4回目土寄せ時
		30kg	11月下旬～12月上旬（越年収穫）

【小型トラクタによるM字土寄せ実演のお知らせ】

今年度は、小型乗用トラクタを用いた、岩津ねぎのM字土寄せの実演会を計画しています。

★日時：9月7日(金) 11時から

★場所：朝来市物部(池本氏・高本氏栽培ほ場)

・312号線澤第一信号をに入って、1本目の農道を南方面へ入る。

★雨天の場合は中止とします。

興味のある方は、直接ほ場へ集合下さい。



<問合せ先>

和田山営農生活センター : 672-4800

朝来営農生活センター : 670-4341

山東営農生活センター : 670-7744

朝来農業改良普及センター : 672-6886